

とんとん味

31号 (2011.12)

はじめまして！

初めて九州へ来たのは、平成元年の七月三十日でした。僕は東北秋田県で生まれ、東京都世田谷区で育ったのでそれまで九州とは全く縁がなかったのです。佐賀県に三年三ヶ月おりましたが、まだ財政危機もななく、今日のように役所や公務員に対する風当たりも強くない時代でしたから、こんなに毎日楽しくていいのかと思うほど仕事と酒とゴルフで充実した時を過ごしました。九州はよかところはいと、心の底から思いましたね。そのあとの人事異動で、当時の環境庁に出向したことが水俣との出会いのきっかけです。でもすぐに富山県のイタイイタイ病の担当になりましたので、本格的に水俣病の仕事をするようになったのは平成六年になってからです。あの頃は行政不服審査の現地審査で、水俣をはじめ芦北や津奈木、出水のあたりまで、月に二度ほどは出張して申請者の家庭をまわって話を聞いて

ておりました。それから熊本県庁に寄って、担当課長と大げんかして帰京するのが定番でありました。国水研があるのは知っていましたが、当時の担当としては用がなかったので環境庁時代には一度も来たことがなかったのです。そういえば平成七年は神戸で大震災が起こった年で、僕は震災三日目の朝に神戸に入って、あまりの被害にしばし呆然としていたことを覚えています。大気汚染ぜんそくの患者さんで、在宅酸素療法の人が千人以上いるということを知っていましたので、安否の確認と援護のための情報収集を目的に神戸に入ったのです。その年の三月には地下鉄サリン事件が起って霞が関周辺も騒然としていましたから、平成七年はとんでもない年だったわけです。そのオウム事件の主要な裁判が終わったのがつい先日ですから、司法の手続きも時間がかかるものですね。昔は水俣病の行政不

服審査も、時間がかかりすぎると言っていていぶん批判されたものです。

初めてこの研究所に来たのは平成十三年、富山県の部長をしていて、水俣病情報センターができたと聞いて視察に訪れたときです。野村所長の案内で研究所の屋上へ上がった時も、まあなんとよい景色であるかと感激したものでした。まさか自分自身がここに来るとは思いもみませんでした。住めば都、いろいろな楽しみ方ができるものと期待しているわけです。

厚生省では薬務局（治験とエイズ事件）、生活衛生局（ゴミとダイオキシン、シックハウス）、労働基準局（過労死と労働安全衛生法）、保険局（医療Gメン）をまわり、防衛省を経て直前には独立行政法人の国立健康・栄養研究所におりました。独法の研究所は、財政難のありを受けて、行革や仕分け、行政刷新会議の評価への対応などでたいへんです。研究者は競争的研究費の獲得にしのぎを削り、事務部門はあらゆる無駄の排除に努めて経営の合理化に懸命ですが、そうしなければ研究所の存続さえ危ぶまれる状況が続いているからです。ですから、国直轄の研究所である国水研も近年

ともに整理合理化を進めているところではあります。これから更に厳しい状況になっていくと思われ、経営の更なる合理化や競争的研究費の獲得などを始め、今後とも努力し続けなければならないと感じております。

水俣ではまだ仕切り網があった頃、港の防波堤で釣りをすることがあります。この辺でクロという、メジナが入れ食いでした。近頃はシーズンになるとアユの釣りばかりですが、熊本には天下の名川といわれる球磨川があるので、そこでアユを釣るのが僕の明確な目標です。

国水研も中期計画に則った研究計画によって仕事をしているようですが、移り変わりの激しい時世の変化を踏まえ、遠い将来のことなども考えつつ、つねに研究機関としての目標を明確にして仕事をしていきたいと思っています。また、よりよい提案があれば必要な措置や改革はためらわずに行っていきたいと思っていますので、皆様からの率直な意見と提案をいただけますようお願いいたします。

国立水俣病総合研究センター

所長 阿部 重一

●特集

今年も開催「一般公開」

八月二十・二十一日に「国水研一般公開」を開催しました。一般公開は、「名前（建物）だけは知ってる」「長年水俣に住んでるけど中に入ったことがない」「何をやってるのころかよくわからない」といった声にこたえるべく、平成十八年から、当センターの研究内容および施設の紹介を目的としてスタートしました。今年は、二日目の雨にもかわらず、延べ一五八名の方にお越しいただきました。



液体窒素を使い、花やバナナ、風船などを凍らせました。参加者がこわこわ触っています。

「まだ間に合う自由研究」といった夏休み中の子どもたちにアピールする企画を中心としたこともあって、小学

生とその保護者が多数参加し、アンケートでは「楽しかった」「また来たい」といった声が多く寄せられました。



新しくなったりハビリ室で、オリジナルのピースキーホルダーをつくっています。集中力が必要です。

今回、最も人気の高かった企画は、「液体窒素を使ったマイナス二〇〇度の世界」です。コマージュナルなどで凍った花がバリンと割れるシーンがあります。それが目の前で実演されると、参加者から歓声が上がっていました。

その他、ピースのキーホルダーや皮のストラップ、新聞紙のエコバックなどを制作する『ものづくり』でリハビリ体験「や、光トポグラフィーという装置を用いて、右脳と左脳の活動の差異を視覚化する「光で見える脳の働き」

などが人気のコーナーでした。また、「身の回りのもので水銀を測ろう」も多くの人が訪れ、二日間で一五五名が毛髪水銀値を測定しました。他にも、水俣湾の生き物に触れる「タッチブール」、顕微鏡や簡易浄水器を使った実験コーナーなど、盛り沢山の内容でした。竹細工師の西村泰昭さんの特別企画、ほっとはうすさんとまどか工房さんの喫茶コーナーも大変好評でした。



画面に出てくる絵を見たり、計算をしたりして、脳のどの部分が活発に動いているか見ます。

世界で唯一の水俣病に関する調査研究機関として、研究成果による地域貢献を目指すとともに、一般公開やセミナーの開催等による地域の皆様との交流も進めてまいります。来年も職員一同お待ちしております。

国水研の動き

（平成二十三年八月～平成二十三年十月）

八月六日 第四回介助技術講習会

八月十日

KITA研修（ベトナム）

八月十一日

芦北郡・水俣市教科等研究会中学校社会科部会一行来所

八月十八日

芦北町立内野小学校一行来所

八月二十日～二十一日

国水研一般公開

八月二十三日

きらめきクラブ一行来所

八月二十四日～二十五日

環境省サマートライアル

九月八日

鹿児島大学一行来所

十月三日

JICA研修

（ブラジル・メキシコ・シリア・モロッコ）

十月十一日

横光克彦 環境副大臣水俣視察

十月十五日

第二十四回健康セミナー

十月二十二日

第四回リハビリテーション技術講習会

十月三十一日～十一月二日

JICA研修（パナマ）

それいけ！研究者！

新任研究者紹介



国際・総合研究部
社会科学室
原田 利恵

四月一日付けで国際・総合研究部社会科学室に赴任しました原田利恵と申します。これまで、公害被害地の再生や自治体の環境政策といったテーマを中心に研究をしております。専門は環境社会学と都市社会学です。国水研は、主に水銀による環境や健康への影響に関する調査研究をしていますが、社会科学室では、水俣地域の再生や活性化に関する社会学的な調査研究に取り組んでいます。

研究テーマ

今年度から私が取り組んでいる研究テーマの一つが中心市街地の活性化

です。水俣駅前から六ツ角へ続く旧メインストリート、そこから図書館へ抜ける浜町の通り、エムズから水光社へと繋がる通りの三本がいわゆる水俣の商店街と言われるエリアで、調査対象地です。

商店街を調べてみようと思ったのは、素朴に「まちのひと」の声を聞きたいと思ったからです。私は、これまで水俣病患者さんや支援者の方のお話を伺うことが多かったため、水俣病

事件と直接には関わりのなかった人たちが、水俣病に対してどういう考えを持っているのか、水俣のまちに対してどういう思いを持っているのか、探ってみたいという関心がありました。

まず、商店街の現状を把握するためのアンケート調査をしたいと思っていただくころ、幸運にも市の商店街アンケートに関わらせていただくことになりました。市の名前がなければ、「水俣病」の名の付く組織が、まちで調査をするというのは、困難だったろうこと

思います。この調査は、市役所と国の研究機関が協力するという意味においても、国水研が「山の上から下りてきた」という意味においても、画期的だったのではないかなと思っております。

現在、アンケートの分析に入っておりますが、まちの活性化に多少なりとも還元できる研究成果を出せるよう頑張っております。

むつかトラボ Atelier

市とアンケートに取り掛かり始めた頃、商工観光振興課の担当者と、「商店街の中に事務所があると便利だね」という話で盛り上がりました。空き店舗はたくさんあります(笑)。いろいろと物色した結果、元中央商店街会長さんだった大家さんのご協力と、理解ある(←上司)の合意を得て、六ツ角に、社会科学室分室「むつかトラボ Atelier」を開設しようとなりました。

トラボの設置目的は、商店街活性化に

関する調査研究拠点、市民と行政の連携拠点、地域交流の場をつくることです。こうした「まちなかトラボ」の取組みは、大学と商店街の連携を始め、全国にいくつもあり、それほど目新しくはありません。ただ、単なる研究施設としてはなく、名称の Atelier に込めたように「芸術家工房」として、通りの雰囲気づくりに貢献すべく、さまざまな展示スペースを設けているのは、めずらしいかもしれません。今後、トラボが研究と実践で、どんな展開をしていくのか、見守っていただければ幸いです。よろしくお願ひします。



むつかトラボ Atelier
1F 展示スペース

お知らせ

★第二十四回健康セミナーを開催しました♪

十月十五日(土)に情報センターで健康セミナーを開催しました。

今回は「筋力バランス維持と転倒予防」というテーマで介護老人保健施設 やすらぎ苑 理学療法士の森信孝先生に講演していただきました。

“筋力・バランスの維持改善と転倒予防”を目的に・基本的な身体のしくみ、・日常生活での基礎的な動き、・下肢や体幹筋の強化方法、・座位、起立時のバランス訓練、・簡単に家屋内でできる体操と環境整備、等の紹介を行い、今後の生活不活発や転倒予防に繋がるような説明がありました。当日は八八名の方が熱心に聞いておられました。

★第四回リハビリテーション技術講習会を開催しました♪

十月二十二日(土)に第4回リハビリテーション技術講習会を情報センターで開催しました。

講師に鹿児島大学大学院医歯学総合研究科リハビリテーション医学教授の川平和美先生をお招きして「促進反復療法」麻痺重度別アプローチと応用」というテーマで講演と実技指導をしていただきました。川平先生の提唱される促進反復療法は当センターの外来リハでも取り入れており、NHKスペシャルでも放映されました。その反響は大きく遠くは京都からの参加もありました。丁寧な実技指導で大変充実した講習会となりました。

♥健康×モ

身体を動かすのに快適な季節になりました。運動は代謝をよくするだけでなく、最近の脳科学の研究で、脳機能にもとてもいい影響を及ぼすことがわかってきました。

神経細胞は成人になると新しく作られることはないと言われてきましたが、現在では、記憶をつかさどる海馬では、生涯にわたり新しい神経細胞が毎日産生されることがわかっています。しかし、その程度は年齢とともに減少し、個人の環境で大いに変化します。ストレスや老化、うつ病などは神経細胞のネットワークを減少させますが、運動は増加させます。マウスを使った実験で、神経細胞の新生を低下させる老化の作用を運動が防ぐことがわかりました。これ以外にも、運動は、脳内でIGF-1という成長因子や精神の安定に必要なセロトニンという物質を分泌させます。IGF-1は、神経細胞のネットワーク形成に関わって脳の記憶と学習機能に重要な役割を果たすBDNFという神経栄養因子の分泌を促進させることがわかっています。身体機能のためだけでなく、脳機能を維持するためにも、適度な運動は重要です。

臨床部 臼杵

編集後記 本日のとんとん峠

今年度の発行は、今回で二回目となりました。(既報分につきましては、HP上にも掲載されております。)今回の特集は、八月に当研究センターにて行われた一般公開の様子をご紹介させていただきました。おかげさまで昨年度にもまして盛況に終わりましたことを心より感謝申し上げます。

また、とんとん峠では、皆様からのご意見・ご感想をお待ちしております。お気軽に左記メールアドレスまでご連絡下さい。

Eメール maj@nimd.go.jp

アクセスマップ

